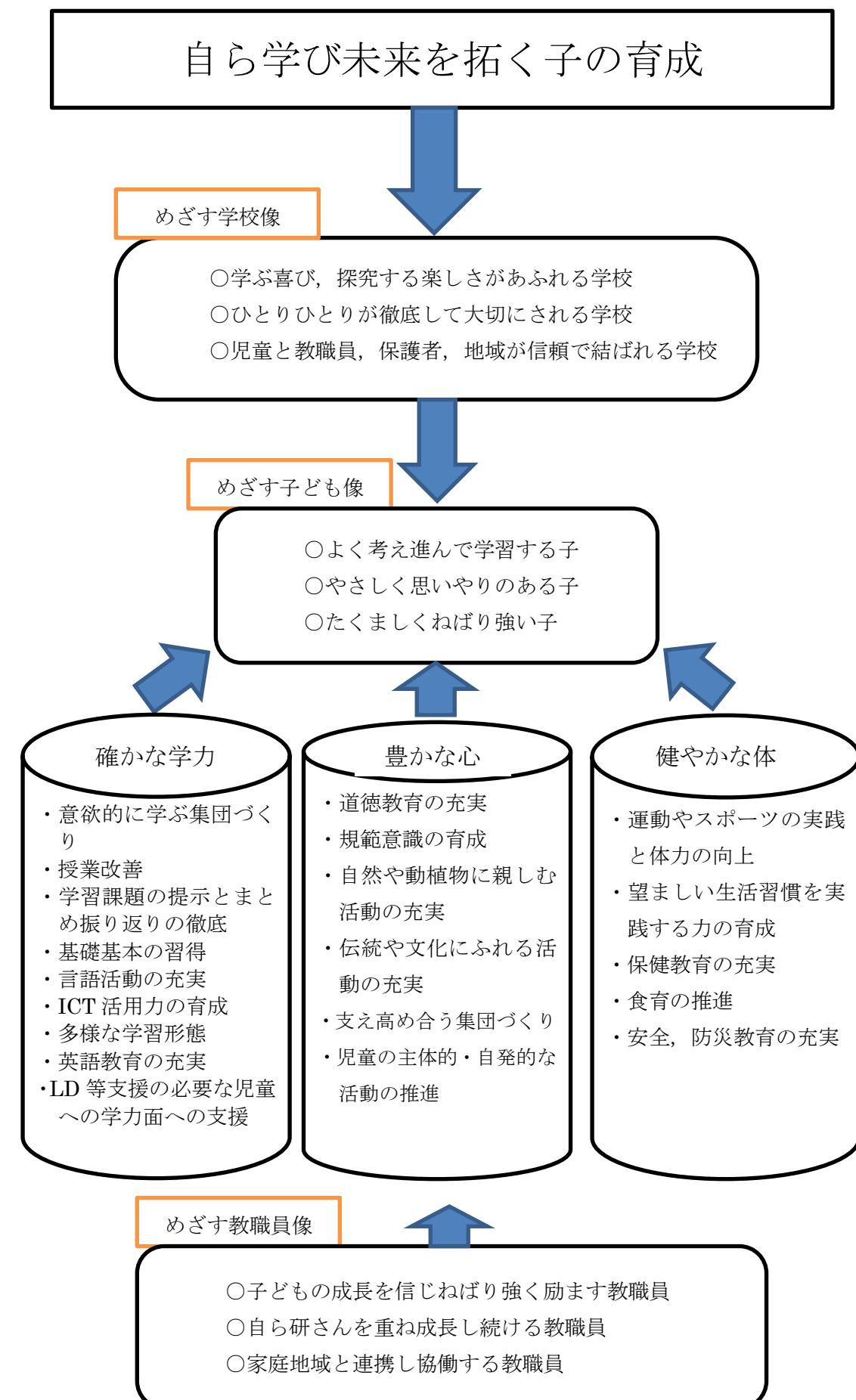


学校教育目標



○学校教育目標設定の理由

教育の目的は、現在そして将来にわたって、子どもを幸福にすることにある。悩みがないこと、何もないことが幸福ではない。自ら決めた目標を立ちはだかる困難や障害を乗り越え、実現していく、その過程にこそ充実を感じるものである。子どもには、主体的に学ぶことで、問題を解決する体験をたくさん積ませたい。また粘り強く、繰り返し学習することで、問題を解決するための力が身につくことを実感させたい。さらに、学習を通して、多様な探究の方法や表現の方法を身につけさせたい。学ぶことは、自分にとって、大切なことであり楽しい（充実感を味わえる）ことであることを実感させたい。

生涯わたって、自ら学び続けることで、自分自身の人生を切り拓き、自分の身の回りの人、地域、人類の未来をも切り拓いていく生き方をさせたい。ゆえに学校教育目標を「自ら学び未来を拓く子の育成」と設定した。

○全ての教育活動を通じて確かな学力・豊かな心・健やかな体の育成をはかる

確かな学力

1. 学習するときの約束やルールを一人一人の子どもが確実に身に付け、意欲的に学ぶ集団づくりに取り組む。
2. すべての子どもが「学ぶ喜びと探究する楽しさ」を実感できる授業めざし、指導方法の工夫改善を図る。
3. 授業において「学習課題（めあて・目標）」を提示し、それに応じた「まとめ」「振り返り」を行うことを徹底する。
4. 各学年で指導すべき基礎的・基本的な知識技能を確実に習得させる。
5. 習得した知識・技能を活用し言語活動を重視した学習活動を展開する中で、思考力・判断力・表現力を育てる。
6. 子どもがICT機器等を効果的に活用し、情報の収集・分析・まとめ・発信・伝達ができるようにするための学習活動を充実させる。
7. 日常的に英語に触れる機会や意図的に英語によるコミュニケーションが求められる環境を作り出すなどの取組を工夫し、英語教育の充実を図る。
8. 体験活動や作業的活動、子ども同士が互いに意見を深め合う活動など、多様な学習形態を取り入れ、主体的に問題解決を図る学習を進める。
9. LD等支援の必要な子どもについて、個々の課題を明確にとらえ、行動面の支援だけでなく学力面への支援の充実を図る。

豊かな心

1. 家庭や地域社会との連携を深め、教育活動全体を通じて道徳教育の充実を図る。
2. 体験的な活動や教科・総合的な学習の時間、特別活動と道徳の時間の関連を図り、道徳的価値の自覚を深める指導の充実を図る。
3. 約束・ルール・規律等を確実に身に付けられるように規範意識の育成を図る。
4. 「京都市いじめ防止等に関する条例」「京都市いじめ防止等取組指針」「学校いじめ防止基本方針」に基づき、学校体制として「見逃しのない観察」「手遅れのない対応」「心の通った指導」を進め、人権意識を高める取組を推進する。
5. 大原野の豊かな自然を活用し、身近な動物や植物に親しみ、育てるなど、直接的具体的な体験を通して命の温もりと尊さを感じることなど、豊かな心情を育む取組を充実させる。
6. 伝統や文化に触れる活動や文化部活動の充実を図る。
7. すべての教職員がしっかりと子どもとの信頼関係を築き、そこにいることの喜びを感じることのできる集団づくりを積極的に行う。
8. 児童会活動や委員会活動など子どもの主体的・自発的な活動を推進する。

健やかな体

1. 運動、スポーツを通して技能や体力を高め、運動することの楽しさや喜び、達成感や感動を味わえるよう、組織的・計画的な安全管理を徹底したうえで、体育学習・運動部活動の充実を図る。
2. 「早寝・早起き・朝ごはん」等望ましい生活習慣を自ら実践する力を育てる。
3. 性に関する指導、エイズ教育、薬物乱用防止教育等について学校全体で共通理解を図るとともに保護者の理解を得ながら取組を進める。
4. 学校給食を生きた教材として食に関する指導を推進し、望ましい食習慣を養う。
5. 子ども自身が危険を予測し適切に行動できる力を育成し、自らの身を守る知識と力を身に付けさせるとともに、地域ぐるみの学校安全の充実を図る。
6. 集団登校の実態を点検し、安全指導を徹底する。

今年度の重点

◎「つながり」をキーワードに、教育活動全体を通じて、人とのかかわりを広げること・深めることを意識させ、子どもの主体性・社会性を育む。

○つけたい力を明確にした「言語活動」

- ・学習課題（めあて・目標）の提示を徹底し、まとめを的確に行う。
- ・発達段階に応じて「話す・聞く・書く・読む」の内容やその組立を明らかにし、言語活動の質の向上をはかる。
- ・学校図書館やＩＣＴを効果的に活用し、児童の学びを広げ、深める

○自律性と責任感の育成を目指した「協働活動」

- ・「3つのあ（あいさつ　あんぜん　あとしまつ）」、「大原の小学校のやくそく」の指導を徹底する。
- ・道徳教育を充実させ、主体的な実践力につながる「道徳性の育成」をはかる。
- ・協働活動を通じて、自己肯定感、自己有用感を高める。